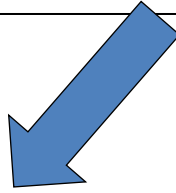
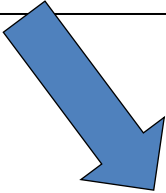


職員による自己評価

- A環境面
 - ・適切な人数を割り当てられている
 - ・バリアフリー面は万全とは言えない
- B児童への支援内容
 - ・一人一人に合った支援を計画書通りに行えている
 - ・教室内のスペースを広く保ち身体を動かせる環境がある
- C関係機関との連携
 - ・お迎え時に学校とのコミュニケーションをしっかりと情報共有を行っている
- D保護者への説明責任・信頼関係
 - ・イベントや活動の内容をHPにて配信している
 - ・父母会等は行っていない
- E非常対応
 - ・緊急時、非常時のマニュアルが整備されている
 - ・年に2回以上の避難訓練を実施している

保護者による評価

- A環境面
 - ・バリアフリー化が進んでいないのではないか
 - ・スタッフの数を把握していない。する機会がない
- B児童への支援内容
 - ・お散歩や公園などの外遊びを増やしてほしい
- C事業所からの情報発信
 - ・HPを頻繁に更新されていて有難い
 - ・子どもの様子等は送迎時に細かく伝えてもらっているので満足
- D非常対応
 - ・子どもの避難先に対する認識が曖昧なので訓練を増やしてほしい
 - ・年に何回訓練をしているかを把握していない



事業所内での分析

- 【共通点】
 - ・連絡帳や送迎時に職員と保護者間での情報共有ができています
 - ・バリアフリー化が進んでいない
- 【相違点】
 - ・外での遊びやお散歩を増やしてほしい→教室内でも身体を動かせるスペースがある

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・一人一人に対し適切なアプローチができています。そのためのスタッフ間での情報共有を行う時間が確保できている
- ・若いスタッフも多いため、身体を動かすプログラムや遊びに対するバックアップ体制が整っている
- ・イベント毎にHPを更新するなどにより情報の発信をこまめに行っている

事業所の改善点

- ・活動プログラムのバリエーションを増やす
- ・緊急・非常時のマニュアルがあるということを周知徹底する
- ・避難訓練の回数・内容をしっかり情報発信する
- ・父母会の有無を検討する

事業所の改善への取り組み

- ・イベント以外での日常風景も定期的にHPにUPすることで普段のスタッフ人数を視覚的に伝えていく
- ・避難訓練の実施スケジュールを資料の共有をもって明確に情報共有をはかる
- ・定期的にスタッフミーティングを行い活動プログラムの評議をすることでバリエーションアップにつなげる

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の方とのコミュニケーションは今まで通り大切に。尚且つスタッフ間でのコミュニケーションを積極的に行うことが大小問わず問題解決のスタートラインに繋がるということを再認識する良い機会になりました。

これからも「子どもたち、スタッフ共に笑顔溢れる事業所」をテーマにスタッフ一同、一致団結し境作りに励んでまいります。

事業所名 プレップ学習サポートセンター横浜

担当者 横山 恵利